

四谷の

千枚田だより



第 142 号



田植え感謝の夕べ

六月六日、連谷お助け隊主催 保存会、棚田っ娘、ふるさと指導員協力によるく灯そう千枚田くを開催した。

「お助け隊」は平成十七年開催の全国棚田サミットを成功させようと連谷校区の若者二十六名が「サミットお助け隊」として発足、その活躍は後々のサミット開催の礎と未だに称えられている。サミット成功に導いたその余韻を地域活性化に取り組もうと「連谷お助け隊」と名を改め、地域貢献に邁進している。

その一環として毎年、田植えの終わった六月の第一土曜日に千枚田を築いた偉大な先祖の辛苦と、その遺産を継承する地域住民が一堂に会し千枚田の作業道に千五百本の蠟燭を灯し、一献を酌み交わす感謝の夕べとして開催、早や十年、梅雨時期にも関わらず「勢いで雨を吹き飛ばそう」と、おかげで十年、一回も雨を寄せ付けなかった。

この催しもロコミ、耳コミで都市近郊からあまりにも大勢が押し掛け、お助け隊のメンバーは交通整理と駐車係で終始、自らが楽しみ、語り合う余裕などない始末であった。今年も原点に帰ろうと花火や催

しものも一切なくし、千五百本の蠟燭を千枚田に灯し、安気に鎮魂の灯に酔いしれた。とは言っても例年と変わらぬ賑わいで、特に若者の姿が多いのにはビックリした。

衆議院議員の鈴木克昌さん、今枝宗一郎さん、市会議員の下江さん、柴田さん、また、穂積市長さんは今年も孝子夫人と一緒においでになられ「むらの衆」と懇親を計られた。(舜)は「国の宝・市の顔」と謳うだけでなく、ちったあ中身を見せておくれんと頼んでみたが、お偉いさん達からは明確な返事はないものの笑顔では、充分に応じて頂いた。



景観整備

五月三十一日、保存会・連谷お助け隊は六月六日の「お田植え感謝の夕べ」を視野にイベント会場周辺やふれあい広場の草刈り、清掃作業を実施した。



仮設トイレの設置

みんなの奥三河、親子観察会等々の都市交流の受け入れに不可欠であるトイレ(中古七万五千元)を設置、十年を過ぎ、老朽化した仮設トイレの更新も同時に行った。

この、仮設トイレは、当初は観察会や稲作体験の参加者を視野に設置したものであるが、知名度も高まり年間二万人の「用足し場」となり汲み取り料も年間四万五千元〜七万円を市からの棚田保全助成金十二万円から捻出してきたが、市もこの実情に理解を示し、今回、真新しい仮設トイレを購入して頂いたと共に汲み取り料も支払って下さるよう、ふんとい、嬉しい限りである。因みに、仮設トイレの協力金箱に一円玉十八枚、五円七十五枚、十円三百三十三枚、計三千四百六十三円で年間四百三十人が千枚田保存に協力して頂いた勘定になった。



食育学習

六月四日、豊橋調理製菓専門学校三十三名は五月十四日に田植えした田んぼの草取りや早苗の生長調査を行った後、梅取りも体験した。昼食は保存会のおっ母さんの指導で地域料理「味飯としし汁」を学び食した。午後は田畑を荒らす「獣害対策」について(舜)のプレゼンを熱心に見聞きました。



観察会

六月七日、市立鳳来寺山自然科学博物館主催の「四谷の千枚田の生き

もの観察会」が四十名の参加で行われた。

千枚田に自然再生(移植)を図ったモリアオガエルがナンテンに産み付けた卵塊の説明に参加者は興味深々であった。

講師 昆虫 大平仁夫 鳥類 緒方清人 哺乳類両生爬虫類 小山舜二各学術委員

寄付

神奈川県在住の加藤雅敏様は「四谷の千枚田」を訪ね、見事に守られている棚田に感動、行政を通し、電話で寄付の申し込みがあり、ありがたうお受けいたしました。

加藤様より 保存会の情報、ご丁寧なありがとうございました。早速本日、心ばかりの寄付を振り込みさせていただきました。なお、インターネットでの小山さんのご活躍の一端も勉強させていただきました。御苦労の様子や棚田を守る考え等々に、感動しました。今後とも小山会長をはじめ保存会の皆さまがますます志を貫き、四谷の千枚田が光り輝いていくことを信じております。

行 平成二十七年六月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二